

図表 6 0 国際園芸博での実践哲学討論を通した地域協生の理解促進

国際園芸博での実践哲学討論を通した地域協生の理解促進



“

(3) 国際園芸博と地域社会のコミュニケーション事業 (SDGs)

国際園芸博と地域との協生について、国際園芸博と地域住民が相互の考えや哲学を通して自由に交流し、国際園芸博コア地域における『地域協生型学塾』を創造していく。

27

図表 6 1 芸術文化の発信を通した国際園芸博の伝統と創造性の理解促進

芸術文化の発信を通した国際園芸博の伝統と創造性の理解促進



“

(4) 芸術文化創造 (SDGs)

横浜の伝統的な学芸を活用し、地域住民との芸術文化の保全と創造を通して、国際園芸博の伝統を理解しながら、未来志向の理念を地域に展開するコミュニケーション事業（本牧神社等）

28

図表 6 2 芸術文化の発信を通じた国際園芸博の伝統と創造性の理解促進

芸術文化の発信を通じた国際園芸博の伝統と創造性の理解促進

Scheme

- 1) 地域の芸術家や一般住民の作品を展示する、アートギャラリーの開催
- 2) 地域の有志の劇団、ストリートパフォーマー、お笑い芸人等が出演する公演開催（週末）
- 3) 地域の有志が演奏する、市民が音楽に身近に親しむための週末プチコンサートの開催

39

図表 6 3 芸術文化の発信を通じた国際園芸博の伝統と創造性の理解促進

芸術文化の発信を通じた国際園芸博の伝統と創造性の理解促進

Scheme

- 4) 日本人が培ってきた美意識を再考する花と緑に関連する薪能の公演（年1回）
- 5) 花と緑の芸術を芸術の枠に留めず生活の中に取り入れる方法や、新しい花と緑の文化のあり型を研究する、著名芸術家を講師に迎えた『こども花と緑の芸術塾』の開催（月1回）
- 6) 国際園芸博記念事業として著名演出家が演出する花と緑のアートフェスティバルの開催（1週間）

39

図表 6 4 子供の学習体験を通した国際園芸博の感動教育への理解促進

子供の学習体験を通した国際園芸博の感動教育への理解促進



“

(5) こどもドラエモン旅行（機運醸成）

国際園芸博の地域広報の一端として、地域の子供たちへの感動を与える学習体験の実践展開により、国際園芸博の新しい感動教育、未来の花と緑の先導者を育成する理念を社会に理解していただくコミュニケーション事業 31

図表 6 5 子供の学習体験を通した国際園芸博の感動教育への理解促進

子供の学習体験を通した国際園芸博の感動教育への理解促進

Scheme

- 1) 層別（低学年・高学年・中学生・障害児）の感動体験学習プラン、層別ガイドマップの作成
- 2) 農業・花き研究者用の層別説明ガイドラインの作成
- 3) 農業・花きの研究者本人による国際園芸博ガイドと子供にも分かりやすい研究内容説明



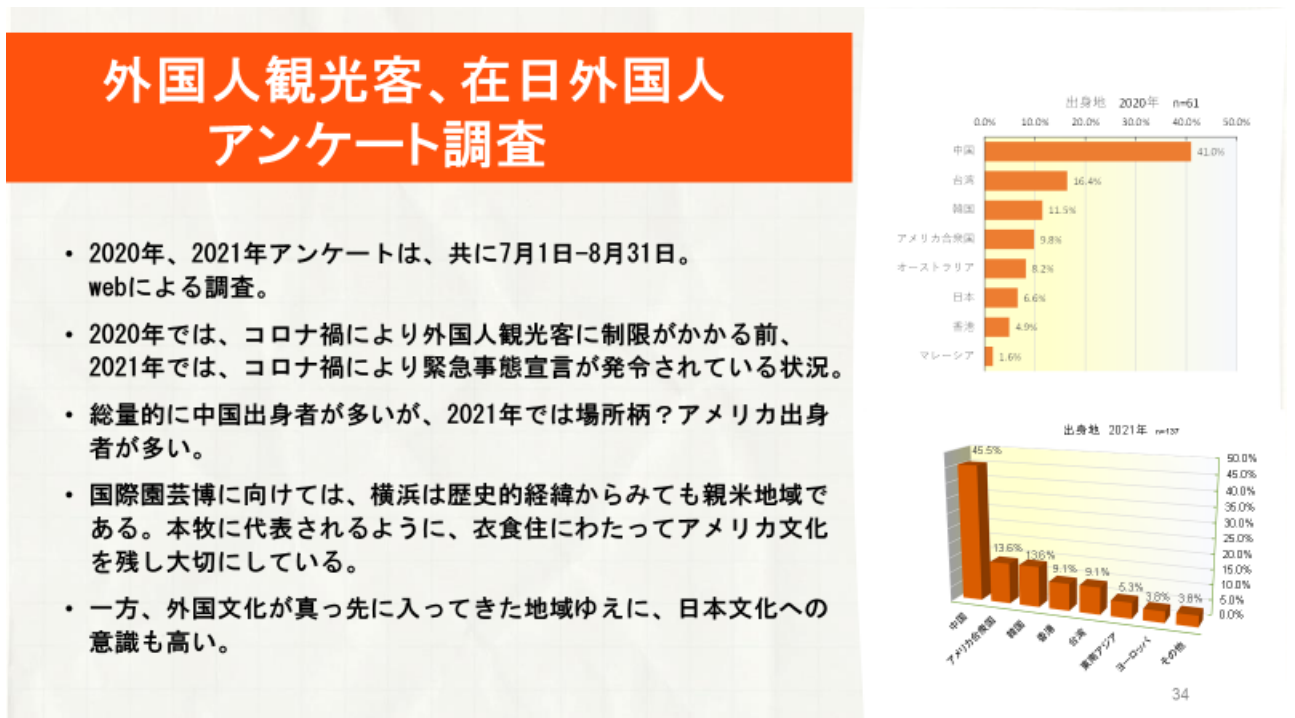
32

図表 6 6 参考



33

図表 6 7 外国人観光客、在日外国人アンケート調査

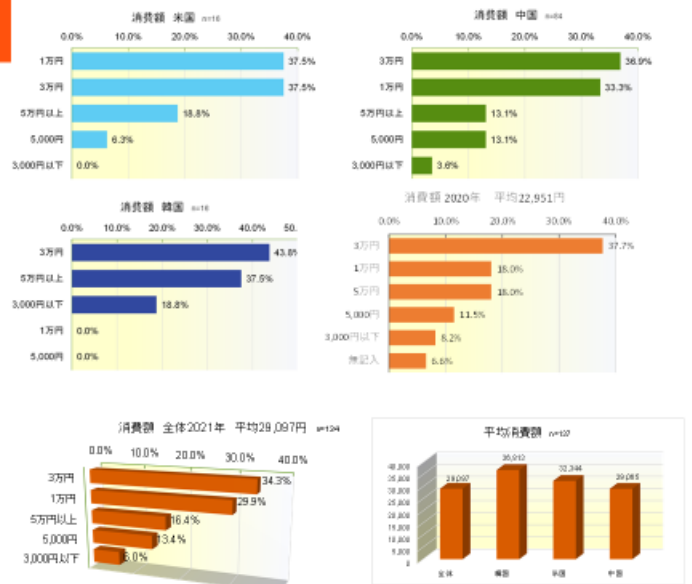


34

図表 6 8 外国人の観光消費額

外国人の観光消費額

- 2020年調査では22,951円、2021年調査では29,097円であり、概ね外国人の消費は2万円~3万円である。
- 2021年調査では、各国別消費額の分布と平均を求めている。
- 一般に中国出身者の消費額が高いといわれるが、これは観光客であり、在日の外国人の中では、むしろ控えめである。
- 在日の外国人では、韓国出身者の消費が最も高かった。
- 国際園芸博に向けては、商品を誰に売りたいかによって、品揃えを考慮する必要がある。
- 特にヨーロッパからの観光客に対しては、マーケティングが必要と思われる。

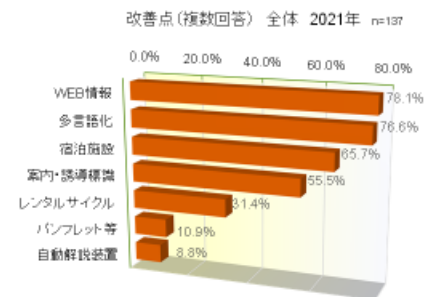


35

図表 6 9 外国人観光客が改善を望む点

外国人観光客が改善を望む点

- 外国人が横浜観光に望む点としてあげたのは、2020年調査、2021年調査共に「多言語化」と「web情報」である。
- 横浜では、駅やYCATなどの拠点には多言語対応の案内施設があるが、まちなかの表示や標識等は国際都市とはいいがたい。
- 特に東南アジアの人にとっては、必ずしも英語や中国語表記がわかりやすいわけではない、といった感想も聞かれた。
- 国際園芸博に際しては、フランス語（ベトナムなど）やタガログ語、スペイン語等の言語対応も求められる。



36

【参考文献】

- ・ 1991 年 10 月 国際花と緑の博覧会 公式記録 (財) 国際花と緑の博覧会協会
- ・ 2001 年 転換期におけるオランダの農業環境政策と施設園芸の展開、内藤重之、農政経済研究第 23 集
- ・ 2001 年 ADOPTION OF TECHNOLOGIES FOR SUSTAINABLE FARMING SYSTEMS、WAGENINGEN WORKSHOP PROCEEDINGS
- ・ 2001 年 THE NETHERLANDS - Food and Agriculture Organization、FAO (INTERNATIONAL TRADE CENTRE, TECHNICAL CENTRE FOR AGRICULTURAL AND RURAL COOPERATION, FOOD AND AGRICULTURE ORGANIZATION OF THE UNITED NATIONS、ROME, 2001
- ・ 2006 年 9 月 2005 年日本国際博覧会 公式記録 (財) 2005 年日本国際博覧会協会
- ・ 2007 年 9 月 チューリップ球根を中心とした花き園芸に関する農業経済の文献案内 (IV)、新里 泰孝・米原 俊 富山大学環日本海地域研究センター「研究年報」
- ・ 2009 年 5 月 オランダの花き産業レポート、本田 繁、(財) 日本花普及センター
- ・ 2012 年 オランダの先進施設園芸に学ぶ、今井 寛之、Green Farm Imai
- ・ 2013 年 3 月 オランダ農業が有する競争力とその背景、一瀬 裕一郎、(株)農林中金総合研究所
- ・ 2014 年 2 月 オランダ園芸産業における最先端技術の現状調査、山崎 竜、農林水産省
- ・ 2020 年 2 月 国際園芸博覧会検討報告書
- ・ 2020 年 3 月 横浜国際園芸博覧会基本計画、横浜市
- ・ 2020 年 オランダの農林水産業概況、農林水産省
- ・ 2021 年 2 月 横浜国際園芸博覧会具体化検討会報告書
- ・ オランダ花き産業における取組について [www.maff.go.jp > shokusan > export > e_enkatu > pdf > flowerh0](http://www.maff.go.jp/shokusan/export/e_enkatu/pdf/flowerh0)
- ・ オランダの花き認証システム 5 [www.maff.go.jp > jas > attach > pdf > yosan-12](http://www.maff.go.jp/jas/attach/pdf/yosan-12)
- ・ 調査結果 [www.maff.go.jp > shokusan > export > e_enkatu > pdf > flowerh2](http://www.maff.go.jp/shokusan/export/e_enkatu/pdf/flowerh2)